

「できない」ことを学ぼう

－比井小 高齢者・車イス体験－

10月30日(木)、比井小学校(玉置雅己校長)でNPO法人「WACわかやま」(中村富子代表)、日高町社会福祉協議会(寺井陽子会長)の協力のもと、5・6年生児童合わせて25人が高齢者の感覚や車イスを体験しました。

関節を曲がりにくくするサポーターや重り、白内障を体験する曇ったメガネなどがセットになった高齢者疑似体験グッズ「つくし君」を身につけた児童らは、高齢者の体を疑似体験。二人一組で1人が介助役になり、小さな文字を読んだり階段の上り下りをしたりして、高齢者の大変さを学びました。

また車イス体験でも、二人ペアになり実際に車イスに乗って体育館に作ったコースを走行。坂道の上下りなどがとても大変なことや、少しの段差でも通れなくなってしまうことなどを、実感を通して学びました。

体験に参加した6年生の鈴木拓海君は「(つくし君を着けると)足が重くて階段がゆっくりとしか登れなかったり、色が分かり難かったりと大変でした。お年寄りの気持ちがよく分かり、これからはもっとお年寄りをいたわろうと思います」と話していました。



日本画の普及に貢献

－日高町文化賞表彰式－

11月3日(月)、中央公民館において日高町文化賞表彰式が執り行われ、鈴木薫さん(日高町小坂：写真中央)が日高町文化賞を受賞されました。

鈴木さんは、県内を代表する日本画家の1人で、ご自分の創作活動はもとより、日高町や御坊市で「日本画すずらん会」の指導者として活躍され、後進の指導・育成に力を注ぐなど、伝統文化としての日本画の普及に寄与されています。

現在は、和歌山県美術家協会会員、院展研究会碧の会会員、御坊市展審査員、日高町文化協会副会長など、数多くの要職に就かたわら、御坊市の成人講座の講師も務められるなど多岐にわたり活躍されています。

日高町文化賞は、町の文化向上と発展に顕著な功績のあった方や団体を表彰するものです。

荻原Bチームが優勝

— 第59回日高町老人ゲートボール大会 —

10月28日(火)、萩原住民公園において第59回日高町老人ゲートボール大会が、全9チームの参加を得て開催されました。

選手宣誓のあと、参加者らは2つのコートに分かれて競技を開始。大会は正午を跨いで行われ、それぞれのコートで熱戦が展開されました。

試合はリーグ戦で行われ、午後3時過ぎには全ての試合が終了。その結果、勝利数3を挙げ、全チーム中トップとなる総得点50点を獲得した萩原Bチームが、見事優勝を飾りました。



優勝した、萩原Bチーム



各地区の防災従事者が集結

— 自主防災会連絡協議会 —

10月21日(火)、中央公民館において町内の自主防災会(白井由喜夫会長)の代表者や区長らが集まり、自主防災会連絡協議会が開かれました。

会では、実施予定の防災訓練や講習会について案内したほか、日高町地域防災計画の概要版や新しいハザードマップを配り防災研修を実施。担当者が「自助・共助・公助」といった災害時の心構えのほか、垂直避難や水平避難といった避難の仕方、水害や土砂災害の種類などを説明しました。

災害はいつ起きるかわからない

— 津波避難訓練 —

11月1日(土)、県内一斉津波避難訓練が実施され、沿岸地区と津波による浸水が予測される内陸地区の方々、陸間等の閉鎖や高台までの避難を実践しました。

比井地区では、津波発生放送を受けて、漁港近くにお住まいの方が素早く漁港に繋がる陸間を閉じ、住民の方々は急いで近くの高台に避難。中でも、小浦地区方面へ続く県道へ多くの方が避難されていました。

災害はいつ起こるかわからないという考えから、今回の訓練は時間帯を変更し、午後5時から開始。薄暗く雨も降る中、対象地区の合わせて888人が参加し、危機管理の意識を新たにしました。

